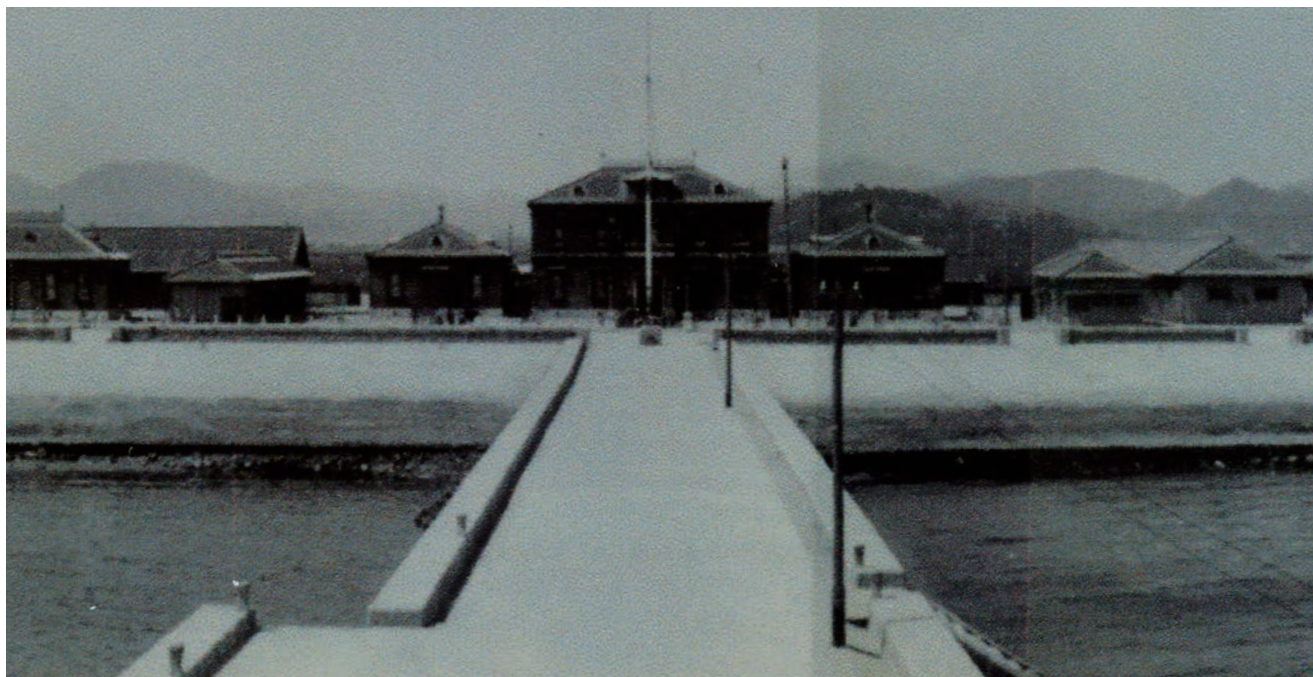


ひろしま郷土資料館だより

No.95

特別展「宇品港」 会期：平成30年2月1日(木)～3月25日(日)



宇品軍用地写真 明治三十五年修築落成後 明治三十六年十一月参謀本部次長男爵児玉源太郎献上
明治35年ごろ撮影 宮内公文書館蔵 写真データは中国新聞社提供
宇品港軍用棧橋周辺を南から撮影している。

今年度の特別展「宇品港」は、広島海の玄関である広島港の前身である宇品港の歴史にスポットを当てました。築港、軍用港としての歩み、商業港・工業港の建設などについて、出来る限り具体的にイメージしていただけるよう資料や写真を展示いたしました。

ここでは、特別展開催にあたって担当者が個人的に「そうだったのか!」と思ったことを紹介していきます。

目次

- | | | | |
|-----|----------------------|-----|----------------------|
| 1-3 | 特別展「宇品港」 | 3 | 新刊案内 |
| 4-5 | 企画展「今昔広島名所めぐり」 | | |
| 5 | 企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」 | | |
| 6 | 報告① 駄菓子作り広場 | 6-7 | 報告② 29年度後期の教室事業・館外活動 |
| 8 | 次年度の企画展 | | |

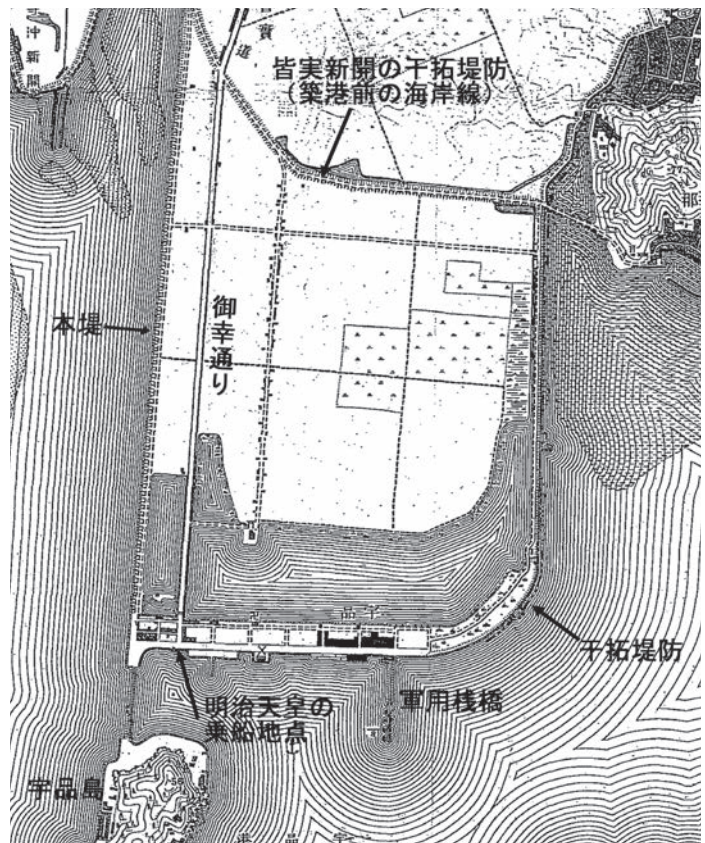
1. 築港費を抑えることができたのは、人造石の使用と堤防の形状をかえたことによる

明治22年(1889)に竣工した宇品築港を強力に推し進めたのは、当時の県令千田貞暁でした。彼を最初に悩ませたのは、想像予想以上に築港費に費用がかかったことです。築港の具体的なプランを作成したのは政府のお雇い外国人技師のムルデルでした。明治14年(1881)に彼は実地を検分し、簡単に言うと次の3つの工事を行うよう指示しています。

①皆実新開の西南隅(京橋川左岸)から起して、宇品島に接合する堤防(以後、本堤と記す)を築く、②本堤の適当な地点で東側に分岐、途中で北向きに方向転換し、皆実新開の東南に達する堤防を築いて、干拓を行う、③宇品島の北東の適当な場所に栈橋を築く。

広島県はその計画に基づいて建設費用の見積もりを行いました。その金額は予算を大幅に超えるものでした。計画の変更も試みましたが上手くいかず、計画がとん挫しているところに登場したのが服部長七です。服部は当時東京でたたき屋を開業していました。「たたき」とは石灰と砂・粘土などを混ぜて水でねり、よくたたき締めて硬くするもので、かつては土間や流しなどに用いられていました。服部は水中でより強固にかたまる種土「人造石」を開発しており、これを知った千田県令は服部に見積もりを依頼します。その結果当初予算以内に工費を抑えることができ、明治17年(1884)になってようやく工事が始まることになります。

工費を安く抑えることができたのは、主に人造石の使用によって堤防の形状を変更することができたのが理由でした。ムルデルの計画では、堤防の法面の勾配を緩やかにし、その表面に綺麗に成形した石を隙間なく積んで波による浸食を防ぐことになっていました。これに対して服部のプランでは、加工していない荒石を利用し、さらに勾配を急角度にするよう変更しており、これにより石の数を減らし、さらに加工費を抑えることができたのです。これは荒石を積んでできた隙間に服部の人造石を充填し、石垣の強度を高めることで可能になったのでした。



築港後の宇品港周辺の様子

「1:20000 地形図 広島(大日本帝国陸地測量部 明治27年測量・明治29年発行)」より 国土地理院蔵

2. 宇品港栈橋は、最初の計画では宇品島に造られる計画だった

当初の計画では、水深がある深い宇品島と金輪島の間を船の停泊地とし、栈橋は宇品島の北東部に建設される予定でした。工事が進む中、工場が設けられていた宇品島に物資を運ぶ為、当時の海岸線と島の間の海中に道が設けられました。これが後の御幸通りです。やがて御幸通りの南端には干拓堤防が建設されましたが、工事全体が終わる前から、その地点に船が着岸し始め、荷揚げした荷物を御幸通り経由で町の中心部に運ぶようになりました。明治18年(1885)には明治天皇が行幸し、そこに

設けられた仮の栈橋から乗船し、呉などに向かっています。そこで当初の計画は変更され、新しく造られる新開地の南端を埋め立てて住宅地とし、その埠頭を港として整備することになったのです。

3. 築港当初、栈橋は1つしかなかった

2で書いたように、港は新開地の南端の埋立地に造られました。栈橋は埋立地の南東隅に設けられ、商用で利用されていました。ところが、明治27年(1894)に日清戦争が勃発、全国から陸軍兵士が広島に集まり、宇品港から戦地に出兵していきました。そのため、栈橋は商用だけではなく、軍用でも使われるようになったのです。そして明治28年(1895)、終戦の直前に栈橋はついに陸軍専用となり、商用の栈橋が西方に新しく設けられました。なお、商用栈橋は当初栈橋会社が経営していましたが、大正9年(1920)に広島市が買い取り今に至っています(現在の市営栈橋)。



港時の宇品港栈橋(後の軍用栈橋)

明治時代 当館蔵

4. 宇品港を出発する兵士たちは、軍用栈橋よりも埠頭の大雁木を主に利用していた

宇品港から戦地に向かう陸軍兵士は軍事輸送船に乗り込みました。輸送船は直接栈橋に着岸するわけではなく、宇品島と金輪島の間で停泊しており、兵士たちは船まで舢舨で運ばれました。そして舢舨の多くは軍用栈橋の両側に設けられていたスロープ状の大雁木(表紙写真参照)に着岸し、多くの兵士はそこから乗船していました。いつの頃からか、大雁木には兵士たちを見送る人々が集まるようになり、そうした見送りの風景をとらえた写真も多く残されています。一方軍用栈橋は、主に士官クラスの軍人が利用していたのではないかと思います。

会期中の来館者数：2,827名

(本田 美和子)

新刊紹介 特別展図録「宇品港」

県令千田貞暁によって築かれた宇品港の築港から昭和7年に広島港と改称した以降に進められた「商業港」「工業港」の建設までの歴史を紹介します。



目次

はじめに
目次・凡例
宇品港築港
日清戦争と宇品港
明治33年の水害と港の改修工事
軍用港としての宇品港
宇品線と潮廻し
商業港・工業港の建設
主な参考文献
展示協力者・奥付

A4判 94ページ
定価：700円(税込)
送料：300円(2冊の場合は350円)

企画展「今昔広島名所めぐり」

会期：平成 29 年 12 月 1 日（土）～平成 30 年 1 月 21 日（日）

広島市への入込観光客数は、昨年（平成 28 年度）、1,261 万人を越え、6 年連続して過去最高を更新しています。近年、特に外国人の観光客が増え、広島は全国有数の観光都市になっています。

広島は原爆から復興した都市として注目を集めています。戦前の広島と言うと軍事都市・戦争・原爆といったイメージが強くありますが、それだけではなく、その時代ごとの広島の人々の日常生活に、楽しみや喜びがありました。今回の展示は名所の移り変わりを紹介することで、広島の歴史を見ていこうとするものです。

【古代・中世の名所】 江戸時代より前の名所とは、和歌に詠まれた地＝歌枕のことを指し、有名な和歌に詠まれた名高い場所が名所とされました。広島近辺でも万葉集に詠まれた場所があります。山上憶良の歌に詠まれた佐伯郡高庭^{たかにわのうまや}駅^{の お}（のち濃畠駅・現在の廿日市市大野町高畑）や遣新羅使の歌に詠まれた長門島（現在の呉市の倉橋島）などです。

【江戸時代の名所】 毛利輝元が天正 17 年（1589）から城下町広島の建設をはじめ、全国有数の巨大新興都市となりました。江戸前期は、広島城、東照宮、不動院、国泰寺、誓願寺などの神社・仏閣、城郭などの巨大建築が名所となりました。案内記として「広島独案内」が、享保・元文年間（1716～41）に完成しています。江戸後期になり、庶民のレジャーが盛んになると花見などのレジャーに適した場所や景観的にインパクトのある場所や漢詩を読むのにいい趣のある場所などが名所に加わり、桃林、桜埦^{おうらつ}、八木梅林、岩鼻（東区東山町）、神崎渡しなどが『芸藩通志』などの地誌で紹介されています。

【明治時代の名所】 江戸時代の名所に加え、五階楼、広島県庁、本川橋、広島大本営、御便殿、日清戦争第一軍戦死者記念碑、凱旋碑（鷹の記念碑）などの近代建築・戦争記念物が新しい名所となりました。

【大正時代・昭和戦前期の名所】 市内電車が開通し、繁華街や博物館が誕生し、市民の娯楽・教養・レジャー熱が高まります。八丁堀、千日前、新天地、縮景園の市民入園許可、浅野図書館、観古館、広島県物産陳列館、長寿園、八木梅林、草津梅林などです。



戦後の名所展示コーナー



戦前の桜の名所や交通図絵の展示コーナー

【戦後の名所】 原爆投下により広島市内にあった観光地のほとんどが失われました。残った名所は、不動院、千田廟、千田男爵銅像、多聞院の頼家の墓などしかありませんでした。その後、原爆に関連した、元産業奨励館（原爆ドーム）、平和記念公園、平和記念資料館（昭和30年開館）、比治山のABCC（原爆傷害調査委員会、現在の放射線影響研究所）などの新しい名所が生まれました。昭和30年代にかけて、縮景園、広島城天守閣（昭和33年）〔広島復興大博覧会の開催に合わせて〕などの戦前の名所が復活してきます。昭和40年代から平成の初めにかけて新しい文化施設、レジャー施設が多く設置されました。平成9年（1998）の原爆ドームと厳島神社のユネスコ世界遺産登録などで、広島は観光地としてもますます脚光を浴びています。近年は原爆・平和に関するものに留まらず、食やスポーツ、芸術など幅広い分野にも広がっています。

会期中の来館者数：1,550名

（河村 直明）

企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」

会期：平成29年9月5日（火）～11月23日（金・祝）

企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」は、平成13年度の開催以来、小学校中学年の学習内容と関連させた展示として定着しています。新美南吉の代表作『ごんぎつね』のストーリーに沿って昔の暮らしに関する道具と人々の暮らしのようすを紹介する構成となっており、29年度も学校団体だけでなく、家族で調べ学習して来館される方を中心に多くの方にご来場いただきました。

小学生は学習内容にちなみ、飯かごや飯櫃・箱膳・広島の郷土食に関連した八寸など、展示された様々な道具を熱心に観察しメモを取る姿が多く見られました。なかでも、はりきり網やびく、物語のクライマックスに登場する火縄銃など、ストーリーとともに印象に残る道具は注目を集め、実物を目にしてその大きさや重みのある迫力から当時の暮らしのようすの一端を感じてもらうことができたのではないのでしょうか。

シニア世代は唐箕やうなぎかごなど、道具を実際に使っていた頃の様子を懐かしんだり、展示の楽しみ方も世代によって様々でした。昔の暮らしを学習している世代とかつて生活の中で実際に道具を使っていた世代と一緒に展示を観て語らう姿も多く、私たちの暮らしがどのように変化しながら受け継がれてきたかを改めて知るきっかけになったと思います。

『ごんぎつね』という一つの童話から垣間見ることのできる、古くから残る暮らしに関する道具やそれらを使っていた頃の暮らしのようすを想像、実感することをとおして、人々の生活の知恵と工夫を世代を問わず多くの方に気づき新たに発見し楽しんでいただける展示として、これからも世代を問わず親しんでいただければ幸いです。

会期中の来館者数：13,533名

（川橋 奈織）



『ごんぎつね』のお話に沿いながら、昔の人々が使っていた民具を展示しました。

イベント「駄菓子作り広場」 実施日：平成 29 年 11 月 3 日（金・祝）

平成 18 年度以来、毎年 11 月 3 日の文化の日に行われるスペシャルイベント「駄菓子作り広場」は今回で 12 回目となる恒例の事業です。昔懐かしい駄菓子を作ったり、夜店や縁日でおなじみの遊びが体験できるイベントとして市民のみなさんに親しまれ、文化の日で入館料が無料ということもあって、毎年多くの参加者で賑わいます。今回は、ポップコーン作り、一銭洋食作り、あったかわらびもち作り、綿菓子作り、スーパースクイ、型抜き 7 つのブースで、のべ 6,487 人の参加者がありました。

この大勢の参加者をお迎えするため、この日ばかりは運営スタッフも郷土資料館職員 9 名、他施設からの応援職員 4 名、歴史探検隊ボランティア 11 名、三井ボランティアネットワーク事業団からのボランティア 4 名、臨時職員 7 名、警備員 3 名、清掃スタッフ 1 名、合計 39 名という大人数になりました。毎年、この運営スタッフを集め、参加者数の見込みにあわせて食材を調達することが担当者の悩みの種となっています。

それからもう一つ頭が痛いのが駐車場です。郷土資料館の駐車場には 10 台余りしか止められないため、毎年、駄菓子作り広場の日には駐車場が混雑し、周辺の迷惑となっていました。そのため、今回、思い切って駄菓子作り広場当日は郷土資料館の駐車場を閉鎖することとし、できるだけ公共交通機関等でご来館いただけるよう、事前に広報しました。そのおかげもあってか、当日は幸い混乱もなく、また駐車場のスペースをイベントのブースとして広く活用することができました。

参加人数：6,487 名

（村上 宣昭）



ポップコーン作りとラムネ菓子作りのブースは今回、駐車場に場所を移して行われました。



ラムネ菓子作りブースのスタッフと参加者

活動報告

平成 29 年 10 月～平成 30 年 3 月

教室事業

実施日	事業名	参加者
11 月 11 日（土）	教室「手すきハガキ作り」	19 名
11 月 18 日（土）	親子教室「絵手紙で年賀状作り」	8 組 20 名
12 月 1 日（金）	大人向け教室「水引き飾り作り」	10 名
12 月 9 日（土）	親子教室「羽子板作り」	8 組 19 名
12 月 23 日（土・祝）	教室「もちつき体験」	21 名
1 月 28 日（日）	教室「けん玉教室」	15 名
2 月 3 日（土）	教室「バウムクーヘン作り」	20 名
2 月 24 日（土）	親子教室「糸つむぎ体験」	22 名

3月10日(土)	教室「わらざうり作り」	15名
3月21日(水・祝)	教室「ぼたもち作り」	21名

ひろしま郷土史講座

実施日	事業名	参加者
12月16日(土)	第4講「広島の名所の移り変わり」	41人
1月13日(土)	第5講「広島を通る街道の変遷」	48人
2月10日(土)	第6講「宇品港の歴史」	47人
3月17日(土)	フィールドワーク2「宇品港史跡めぐり」	21人

その他の事業

実施日	事業名	主催等	参加者
10月15日(日)	工作指導「縄文くみひもかざり」	秋のグリーンフェア	50人
10月28日(土)	講演とフィールドワーク「歩いて楽しむ郷土史講座」	吉島公民館	9人
11月1日(水) ～30日(木)	出張展示「およそ100年前の広島」	安佐公民館	3,558人
11月15日(水)	講演「広島城築城のベールを剥ぐー「島普請」をめぐるー」	宇品公民館	26人
11月16日(木)	工作指導「藍でハンカチ染め」	段原公民館	13人
11月29日(水)	本川河岸のフィールドワーク	青年布教使有志による全国大会	34人
12月4日(月)	講義「博物館資料論」	広島市立大学	22人
12月9日(土)	講演「南区の歴史と災害について」	南区安全安心なまちづくりフェスティバル	20人
12月13日(水) ～27日(水)	出張展示「およそ100年前の広島」	宇品公民館	596人
12月17日(日)	講演「いっきに学ぶ可部の歴史」	安佐北区図書館	49人
1月14日(日)	講演「今昔広島名所めぐり」	安佐南区図書館	12人
1月23日(火)	授業「郷土の風土と文化」	高陽東高等学校	14人
2月15日(木)	講演「広島城下町物語」	瀬野公民館	86人
2月17日(土)	講演「広島港の歴史」	マリン・アシスタント広島	16人
2月23日(金)	講演「安芸区の山城」	安芸区図書館	20人
2月28日(水)	講演「広島城下町の暮らしについて」	古田公民館	56人
3月3日(土)	講演「宇品凱旋館について」	宇品公民館	58人
3月15日(木)	歴史トーク	まちなか西国街道推進協議会	80人



教室「餅つき体験」の様子



工作指導「藍でハンカチ染め」
(段原公民館)の様子

平成30年度 展示紹介

企画展 漫画『この世界の片隅に』に見る戦時下の暮らし
平成30年4月14日(土)～7月8日(日)

漫画「この世界の片隅に」(著者:こうの史代)に描かれている風景や戦時下の暮らしにスポットをあてながら、当時の時代背景や生活の様子について、パネルや実物資料でご紹介します。



「この世界の片隅に」© こうの史代/双葉社

企画展 夏休みおばけの博物館

平成30年7月20日(金)～8月26日(日)

おばけ屋敷を追体験してもらうとともに、おばけの多様な世界や、おばけを生み出した昔の人々の生活を紹介します。



29年度の展示の様子

企画展 『ごんぎつね』が語る昔の暮らし

平成30年9月4日(火)～11月25日(日)

新美南吉の童話『ごんぎつね』のストーリーを交えながら、童話に登場する昔の道具や人々の暮らしを紹介します。



29年度の展示の様子

特別展 明治時代の広島

平成30年12月7日(金)～平成31年2月17日(日)

明治維新150周年を記念し、市制施行、宇品築港、日清戦争など大きな出来事が目白押しの明治時代の広島を概観します



宇品陸軍糧秣支廠 個人蔵

企画展 広島のお宝発掘

平成31年3月1日(金)～5月6日(日)

広島市内の遺跡から出土した数多くの埋蔵文化財の中から、よりすぐりの出土品を展示します。

下沖5号 ナイフ形石器
(公財)広島市文化財団 文化財課蔵



ひろしま郷土資料館だより No.95 平成30年(2018)3月31日発行

編集・発行 公益財団法人広島市文化財団 広島市郷土資料館

〒734-0015 広島県広島市南区宇品御幸二丁目6-20

TEL: (082) 253-6771 FAX: (082) 253-6772

URL: <http://www.cf.city.hiroshima.jp/kyodo/>

